

トピックス

ミニ四駆ジャパンカップ2023 大会公式乾電池でサポート

当社は、模型メーカーの株式会社タミヤが主催するミニ四駆日本一決定戦「Powered by FDK ミニ四駆ジャパンカップ2023 Drive on ヨコハマタイヤ」の大会スポンサーとして2023年もサポートしました。

ミニ四駆ジャパンカップは1988年の初開催から今年で35年目を迎えたミニ四駆のビッグタイトルで、2023年7月から全国各地11会場、17の予選大会を順次開催し、10月29日にチャンピオン決定戦が実施されました。2023年の大会公式コース「バニーホップ アメイジング サーキット 2023」は、「FDK ローリングフォール リフレクト」（左回りのスロープ状コーナー）をはじめ、そのコース名称のとおりバニー（ウサギ）が飛び跳ね回るような激しいジャンプや下りセクション、コーナーが配置された全長約188mの「ミニ四駆ジャパンカップ」にふさわしいスペシャルコースで、全国各地のミニ四駆レーサーが挑戦しました。

当社製アルカリ乾電池は、その高い性能と信頼性で、ミニ四駆競技大会の公式乾電池に長年指定されている唯一の乾電池です。一人ひとりのレーサーが情熱を込めてつくり上げたミニ四駆をしっかり支えるパワーであり続けるために、乾電池のさらなる性能と品質の向上に努めてまいります。

※ミニ四駆は株式会社タミヤの登録商標です。



大会シンボルマーク 2023年大会コース「バニーホップ アメイジング サーキット 2023」



大会ロゴ



ミニ四駆ジャパンカップ2023公式乾電池

世界最小「Bluetooth® Low Energyモジュール」の製品化・サンプル出荷を開始

当社と株式会社東芝は、東芝が独自のSASP® (Slot Antenna on Shielded Package) 技術を用いて開発した世界最小の「Bluetooth® Low Energyモジュール」の技術ライセンス契約を締結し、2023年10月より国内の一部の顧客向けにサンプル出荷を開始いたしました。

世界最小の「Bluetooth® Low Energyモジュール」は、2021年に東芝が開発した後、東芝が持つアンテナ設計技術と当社の高密度実装技術、小型シールド樹脂印刷技術を持ち寄り、両社共同で内蔵メモリ容量を拡大しながらモジュールサイズを2021年の開発時からさらに小型化することに成功しました。

当社は電子部品製造の豊富な経験を活かした量産体制を構築し、受注対応から製品供給、品質保証まで、全てのお客様へのサポートに対応してまいります。

※世界最小は、アンテナ付きシールドタイプ 32KHz/32MHz 水晶振動子内蔵モジュールとして（2023年9月1日現在FDKと東芝調べ）。

※SASP®は株式会社東芝の登録商標、SASP技術は株式会社東芝の特許技術です。

※Bluetooth®ワードマークは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する商標です。



4月

5月

6月

7月

8月

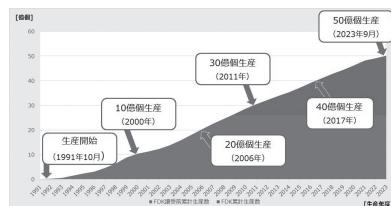
9月

ニッケル水素電池生産工場 累計生産数50億個達成

当社高崎工場（群馬県高崎市）で生産しているニッケル水素電池の累計生産数が、2023年9月に50億個を達成しました。

高崎工場は、1991年10月にニッケル水素電池の生産を開始して以来、性能や品質の向上に加え、2010年には太陽光発電の電力を電池の初期充電や工場内で使用するなどの環境活動の取り組みをグループ内で先駆けて開始したほか、環境温度や耐用年数などの条件で実現が難しかった車載通信機バックアップ用途への参入や、太陽光発電で充電した電池を音響機材の電源として使用する音楽ライブの協賛など、様々な取り組みを続けております。ニッケル水素電池の特長、性能、高品質をご評価いただき、2023年9月に累計生産数50億個を達成することができました。

当社のニッケル水素電池は、様々な用途において安心・安全にお使いいただけるよう国内生産にこだわり、精密さや丁寧さを誇る日本のものづくりによって高品質を実現しています。また、SDGsの観点からもリサイクル性が高い充電式電池として世界的にも注目が高まっており、2029年までに次の目標である累計生産数60億個を目指してまいります。



累計生産数の推移



ニッケル水素電池



高崎工場